

# 3 ICT・1人1台端末(タブレット)を活用した学習の充実

授業支援ソフトやデジタルドリルなど、様々なソフトを学習場面に応じて柔軟に活用することで、情報を主体的に選択し活用していくための基礎的な資質としての「情報活用能力」を身に付け、情報社会に対応していく力を育みます。

## 個別学習での活用場面

朝学習の時間に自分の課題に取り組もう。



学習動画やAI搭載型のドリルを活用し、自分の進捗や能力に合わせた学びを、学校・家庭ともに進めています。

1人で考えてみよう。

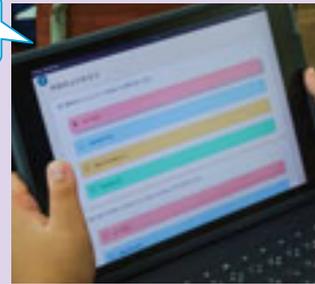


算数の問題場面を図の操作によって確認し、式に表します。

どんなことが分かったかな。  
何ができるようになったかな。

授業の振り返りを先生に送信します。先生はすぐに一人一人の学びの状況を把握することができます。

このような一人一人の学習の履歴を記録し、様々な場面で活用します。



今の自分に必要な課題を自分のペースで進められるようになり、学習効果が高まっています。

## 協働学習での活用場面



自分の考えを整理するために、様々な「思考ツール」を使ってまとめます。

文字や写真、動画などを使ってスライドを作成し、自分たちの考えを伝えます。

修学旅行で、ハピリンの大画面に映像を映して発表したよ。



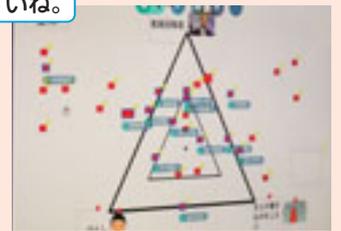
グループでお互いの考えを共有し、自分の考えと比較しながら学びを深めます。

誰もが自分の考えを発信しやすくなり、主体的に学び合う場面が増えています。



大型画面で情報を共有し、子どもたちが説明を加えながら授業を進めていきます。

友だちの意見と比べやすいね。



自分の考えを提出することで大型画面に共有され、誰がどのような考えを持っているのが可視化されます。

## 一斉授業での活用場面

## 様々な場面での活用



プログラミング教育



校外学習



教員の研修会

植物観察

## 情報モラル教育



めまぐるしく変化する情報社会においても、「トラブルを起こさない」、「トラブルに巻き込まれない」など、情報を適切に活用できる力を育みます。

これまでの学習方法も大事にしながらいCTを効果的に組み合わせ、より質の高い学びの実現をめざします。